

「これからの小学校外国語教育」

講師 別府大学短期大学部 准教授 大田 亜紀 先生

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました大田と申します。

小学校の外国語教育を専門としております。ここ10年ぐらいは、外国語教育における評価の在り方について研究を続けています。今日は、三つのことについてお話をしたいと思っています。主に内容が小学校のベースになっているのですが、幼児教育の子供たちも小学校つながるというところで、その先の姿として、聞いてもらえればと思っています。

これまでの小学校外国語教育

さて、これから小学校外国語教育が変わります。いや、変わりました、今年度から。移行時間に先行実施をしていた学校は、その2年間を含めたら3年目になる学校もありますね。

3、4年生と5、6年生の外国語は、少し違います。小学校の先生は、もちろん御存じなのですが、3、4年生の外国語活動は「領域」です。「教科」ではない。ここがまず大きく違います。教科としての外国語が、週に2時間始まるわけです。教科になりましたので、教科書が必要になり、今年度から教科書を使った指導が行われています。これらは、今まで使われてきた教材です。

「Let's Try!」は、国が作った外国語活動の教材で、希望する小学校に無料で配布されています。

「We Can!」も昨年度まで使われていました。これは、高学年用でした。

さあ、これまでの外国語教育から、このように変わっていくわけですが、変わるんだけど変わらないことがあります。「どういうこと？」って思うかもしれません。本質的なことは変わらないんです。たとえ教科になっても変わりません。今回、すごく変わるからどうしよう、どうしようって、とっても心配になっていらっしゃる先生方が多いのですが、本質的なことは、これは変わりません。

じゃあ、大事にしてきたことって何でしょう。聞いてもいいですか。

先生、これまでの外国語授業が大事にしてきたことってどんなことですか。……。

「… 英語をととても楽しく、そして慣れ親しむようにしていきたいなというふうに思っています。」

すごく楽しく、そして楽しみながら慣れ親しませるような指導をされてこられたと言うことですね。慣れ親しむことを大事にしたってことは、これまでは領域だったから、定着は求めなかったってことですね。大事ですよ。もっとありますか。

「… 子供同士のコミュニケーションとか、先生同士のコミュニケーションを通して、英語をどんどん身につけていくことだと思います。」

ありがとうございます。まさに、コミュニケーションを通して、外国語に親しんできましたね。英語を使いながら、相手に伝えたり、相手の言うことが分かったりして、言葉を通してわかりあう喜びやコミュニケーションへの積極性を高めてきました。

決して、覚えなきゃ駄目だから、100点じゃなきゃ駄目だから、そういうような指導ではなく、先ほど、先生がおっしゃったように、活動を通して、豊かに慣れ親しませてきたたわけです。「英語って面白いな、楽しいなって。英語で、こんな言い方するんだな。」と言葉そのものへの興味・関心も大事にしてきました。

これらのことは、新しくなっても全く変わりません。ご覧のスライドの中に、大事にしてきたこと

を挙げてみました。このほかにもまだあるかもしれませんね。

教科となって変わることの一つは、評定をしなくてはいけないということです。

今日は特に幼児教育の現場の先生方もたくさんいらっしゃっています。今は、幼稚園や保育園等でも外国語に触れる機会が増えましたね。ぜひ、英語って面白いんだなって、楽しいなという体験、遊びをいっぱいさせてほしいなと思っています。

言語を身につけるには、学校教育の時間だけではとても無理です。私は、その基盤になるのは、英語が使えるようになりたいな、話せるようになりたいな、という動機付けだと思っています。言語への興味・関心、こうなりたいという希望や憧れ、という強い動機があり、目標があれば、学習し、自ら学ぶ。そう思います。そのための時間には、学校教育以外の時間が必要となります。そんな動機付けをもたせることが、すごく大事だと思っています。そこには、楽しいとか、できるようになりたいという思いがとっても大事です。「言えるようになった?」「できた?」「練習しなさい」、みたいなことは言わずに、真似して言えたら「very good!」「上手だね」と。そしたら、今度は自信に満ち溢れるわけですよ。発音できたことを褒めてあげる。日本語じゃない英語です、自分の国の言葉じゃない。不安だなんて思います。外国語に触れ初めは特に頑張ってたことを褒めていきたいですね。

学習指導要領における外国語の目標

さて、学習指導要領の話に移っていきなさいと思います。学習指導要領の外国語活動、外国語科の目標を見てみましょう。すごく似ています。小学校の3年生から高等学校に至るまで貫かれているのが、「コミュニケーションを図る資質・能力」です。コミュニケーションを図る資質・能力を一貫してつけていきたいと思います。だから、小学校が中学校につながり、中学校は高等学校につながります。外国語活動が導入されたとき、中学校の先生から「英語嫌いはつくらないで」言われました。中学校から初めて英語を学習していた時は、生徒はキラキラした目で、英語の学習をしていたが、小学校の英語の授業で、英語が嫌いな子になったら、中学から困ると言うわけです。これは、本当によく言われました。子供たちの英語に対する興味・関心やコミュニケーションへの積極性については、プラスになったという結果も出ています。(初めて小学校で英語を指導するという状況になったが)小学校の先生の努力の成果だと感じています。

言語活動とは

外国語活動、外国語の目標の中程に、言語活動を通してと書かれています。この、「言語活動を通して」という部分について、少しお話ししたいと思います。これは、すごく大事です。

言語活動とは何か、この言語活動のイメージをしっかりとつことがとっても大事なんです。今回、言語活動が定義されました。定義はされましたが、これは学習指導要領には載っていません。

言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」のことです。

これ、すごく大事なことです。言語活動を行うためには、英語に関する知識・技能を使います。どんな内容を、どんな表現で言ったらいいのだろうと情報を整理しながら考え等を形成するための思考力、判断力、表現力を活用します。ここでは、コミュニケーションを行う目的、場面、状況の設定が必要になってきます。

では、言語活動ではない活動って何だろう。いろんな活動があるけど、言語活動じゃない活動って何でしょう。

「・・・ リピート。」

リピート、単純なリピートですね。これは言語活動と言えませんね。何故かと言うと、考えや気持ちをやり取りしないからです。

「・・・ 何か単語の練習をノートに書くだけ」

ただ書き写しているだけは言語活動と言えませんね。なぜならば、

「・・・ 気持ちが入ってない。」

その通りです。

このようなりピートや発音練習、文字を単純に書く活動は、言語活動ではなくて練習と言います。しかし、練習も大事です。練習なくていきなり伝え合う活動って、とても難しいです。ですので、この練習の時間をいかに単元の指導計画の中に入れていくかという事も、とても大事です。

これは、令和元年度の英語教育実施調査の結果です。グラフを見てください。中学生の英語力を示しています。グラフの最初は、平成23年度で、これが（最後が）令和元年度。中学生の英語力がぐんと伸びています。平成23年度って何があった年ですか。これは、前回の小学校学習指導要領の全面実施の時です。平成23年度から、小学校が音声を中心にした指導を大事にしながら進めてきたことが、中学校につながり成果として表れているのだと思っています。

高等学校見てみましょう。令和元年度の英語教育の実施状況調査の結果です。これも、平成23年からどうでしょうか。確実に、毎年伸びています。これは、もちろん中学校、高等学校の英語科の授業変わってきたことに、大きく影響していると思われます。

これは、先ほどお話ししました言語活動を、中学校、高等学校がどの程度取り入れているかについての割合です。中学校、80パーセントぐらいです。1年生、2年生、3年生、中学の先生が頑張っていることがよく分かります。（高等学校の調査結果も同様にしてみると）児童・生徒の言語活動が豊かになれば、英語力が高まると言うことが、これらの結果から分かります。

今まで、見てきたように、幼児教育も、小学校も、中学校も、高等学校も、連続体の一部なのだという意識を持って、小学校の先生は、次どんなふうにつながっていくのかなと先を見る、若しくは、前どんなことしてるのかなというふうに意識をもつこともすごく大事です。中学校の先生は、ぜひ小学校の英語の授業を見に来てほしいといつも思います。小学校を知っている中学校の先生が増えたら、さらに充実していきたくらうと思っています。なかなか授業の中で変えてくのは難しいですが、知ると変わりますよね。ぜひ、そうであって欲しいと思っています。

新しい小学校外国語教育における指導と評価

これまでの小学校外国語教育について、話をしてきました。ここからは、新しい小学校外国語教育についてお話ししていきたいと思っています。

3月から、学校が突然休校になりましたね。5月頃、私は、オンラインで小学校の先生たちと話をしました。毎週家庭学習のプリントを作り、印刷をして1週間ごとに家庭に配っていたり、家庭学習用手引きを作ったり。中には4月の段階で、すでにロイロノートを使って遠隔で授業をしているところもありました。学校の新しい生活様式が示され、このレベル3になったときに、感染リスクの高い教科活動は行わないようにするとなりましたね。体育も駄目ですね、合唱も駄目だってことですね。もうほとんど駄目。外国語も基本的に相手との会話ですから、感染リスクは高いことになり、対話ができなくなりました。会話ができなくて、じゃあ何やってるのって事ですよ。でも会話活動も、活動の仕方を工夫して、隣同士、顔は前を向いてるんだけど隣の人と横向きで話してるんですね。また、他には、机を二つ並べて、できるだけ机の端と端に座って、そして、ちょっと横向いてしゃべっているとか。ものすごい努力をしながら、でも何とか許される限りの会話はしていました。

時間数確保についても、今までの45分の授業時間、一単位時間を40分にしてやっている。ある学校では、1単位時間を35分にしている。そうすると、振り返りの時間が取れない。でも35分でやらないといけない。とにかく授業が進めるのが大変と話されていました。

予定していた計画が、もう二転三転。いや、二転三転じゃない、五転六転ですよ、と。もう最初の計画はあってないようなものという声には、本当に愕然としました。

小学校の先生は、外国語だけやっているわけじゃない。ほかもいっぱい抱えている。何より授業が十分できないのは大きな課題です。授業が十分にできないならば、評価もきちんとできないって話になります。授業ができてないのだから。私が聞いたある学校の校長先生は、1学期は評価をしない、通知表はなし、つけないという判断をされた。なぜならば十分な指導ができてないから。評価するまで十分できてないのだから、これは無理でしょうっていう校長先生のご判断でした。中には、今年度だけ2学期制にするという学校もありますね。

ここから評価の話をしようと思います。まず、評価って何のためにするのか、についてです。

こちらは、昨年度出されたもので、「学習評価の在り方ハンドブック」です。今回の新学習指導要領改訂を踏まえた学習評価の要点についてまとめて書かれています。ここでは、学習評価が、「子どもにどんな力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る」こと、つまり授業改善のための評価、そして、「子ども自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする」こと、つまり学習改善のための評価であることが重要ですよ、と示されています。授業改善と学習改善のための評価、そこを大事にしましょうねということです。

まだ私が教員になったばかりの頃は、相対評価でした。それが絶対評価に変わりました。目標設定がされ、目標達成のための授業があって、子供たちが達成できたかということの評価することになったわけです。一定の割合で評定をするのではなく、目標達成できたら○ということです。その当時の校長先生から、「子供の通知表を先生は作っているのかもしれないけど、それはあなたの指導の評価だよ」と言われたことを思い出します。要は、たとえばCをつけている箇所が多かったら、力をつけられなかった自分の証だよというわけです。できてない子供を理由にするのではなく、そこまで力を付けてあげられなかった自分の責任であると。確かにその通りです。

「外国語科」の目標と「英語の目標」と学習評価

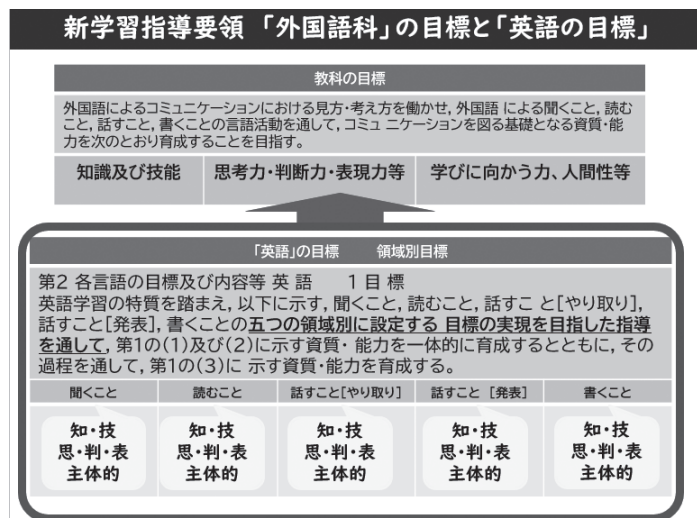
学習指導要領の外国語科の構造は、実は、他教科との構造と異なっています。詳しく見てみましょう。

まず目標があります。三つの柱、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」で示されていますね。この示し方は、今回の学習指導要領において、全部同じです。これに、外国語は内容のまとまりごとに目標があります。その内容のまとまりごとの目標の達成を通して、外国語の目標に向かわせますよっていう構造になっています。

三つの柱の目標があり、そして、五つの領域の目標があるんです。領域ごとに目標があるんですね。なので、この下の領域、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の中にも目標がある。なので、評価するとなったら、この中に全て、評価の3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性」に取り組む態度があるのだから、それらを全て評価していくことになるわけです。これがちょっとほかと違います。

国語を見てみましょう。小学校の学習指導要領、国語です。目標は同じような構造です。国語科における「話すこと」「聞くこと」も同じようにあるのですが、国語科は全部これが「思考力・判断力・表現力等」に入っています。構造が異なりますね。

小学校の外国語科はそんなにたくさん評価するの？と思いますよね。つまり3観点の5領域で15通



りの評価規準があるわけなので。

「聞くこと」の知識・技能を見て、「聞くこと」の「思考・判断・表現」を見て、と、これ毎単元全部やるのかと思われませんか。それは大変。でも、そんなことしなくていい、そんなことできません。国もそのように言っています。

学年末に評価を総括し、指導要領に記載する際に、全ての評価がそろっていればいいので、単元ごとに、全ての領域について評価を行う必要はありません。

この単元ではこの領域のこの観点での評価をする、この単元ではこれは評価しないと決めればいいです。そして、全体的にバランスよく評価していくことが大切です。

さて、例えば、ある単元の評価で「聞くこと」、「話すこと」、この二つについて評価したとしましょう。「聞くこと」の思考・判断・表現はAだった、「話すこと」の思考・判断・表現Bだったとします。では、この単元での思考・判断・表現をAにするか、Bにするかは、ここは指導された先生が総合的に見て判断します。A、BときたからAにするとか、A、Aだから、Aとかいうような明確な方程式があるわけではありません。ただ、B、Bがきて総合的にCってことはないでしょう、これはないですよ。そこは、先生が見とった、要は記録に残した評価を基に、最後の評価をしていきましょうということです。だから大事なものは、年間で評価の計画を作っていくということです。この単元では「話すこと（発表）」をとく、この単元は「読むこと」をなどのように決めておくことすごく大事だと思います。

さあ、評価に関する「小学校あるある」なのですが、小学校って、業者テストを使うことが多いです。どうですか。色のついたカラーの、大きさで言うとこれぐらいのですね。これはね、私も本当に何でだろう、使うことを当たり前を感じていて、何故使うのかと疑うことがなかったんです。中学校、高等学校は業者テストで評価はしませんね。自分たちで必ず作っておられますよね。今回、小学校の外国語科で評価が始まるにあたって、「全部業者テストで評価でいいんじゃない」って声を聞いたわけです。

私は、業者テストを否定するつもりはないんだけど、いや逆にあれだけの短い期間でテストを完成させたことはすごいと感じました。テストの中身も拝見しました。その時に、感じたことが、本当にそれで適切に評価できるかなってということなんです。もちろん評価できるものも当然あります。ただ、授業をどのように目標設定して行ったか、そしてその到達した姿をこのペーパーの内容で判断できるか、ということです。

これからは、ペーパーテストを使うことはあると思いますが、それが本当に自分たちの指導に対して適切な評価が可能かなって評価テストを見る目が必要だと感じています。小学校は、これまでテストを作る、ということがあまりなかったですね。なかなか難しいです。ここはぜひ中学の先生にノウハウを教えてもらうことも必要になるかもしれません。

今日は、具体的な評価を実際にみんなでやってみたいと思います。

先ほどの事例集の中に、事例1というのがあります。ここでは、月の名前、月の言い方、行事の言い方、誕生日はいつかを尋ねたり、誕生日を答えたりする表現、そして序数の言い方が出てくる単元です。

この事例1の指導計画を見ると、気が付くと思うのですが、評価はどこでしているか見

てみましょう。すると、斜線のところは評価しないということです。評価しない。ということは、よく見ると単元の後半部分に評価がある。つまり単元の初めの方では評価しないというわけです。今までの学習指導案の中には、必ず毎時間、評価を入れたいと思うのです。それが、ぐっと減っています。単元の後半。力がついてから、できるようになってから評価をしましょうねっていうふうに変わってるのが、大きな違いです。ただ、では、最初は評価しないのか、となりますが、そうではありません

本単元における「聞くこと」「話すこと」「やり取り」の評価場面

時	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1			
2			
3			
4	指導者の話を聞く		
5	(LW&T 5)		LW&T 5
6	ACT 2		
7	(ACT 2)		ACT 2

形成的な評価は随時行う

ん。記録に残す評価が後半部分に実施されるということで、形成的な評価は随時行っていきます。

少し、具体的にやりましょう。まず知識・技能からいきましょう。知識・技能。次の言い方、I like、I want、Do you like～？ What do you like? What do you want? の言い方について理解している、聞いて分かるこれが、ここで言う知識・技能ですね。ここで「聞くこと」の知識・技能を評価しようと思った時、言語材料を示した上で聞き取らせても、本当にこの知識・技能が身についたかどうかは判断できません。聞き取ることは示して、でも何かは自分で聞き取らせることが大事ですね。では、今から言ってみますね。私が先生で、先生がいまから誕生日や好きな色、欲しいものについて話すので聞き取ってください。

「Hi, everyone. My birthday is September 28th. This is my bag. I like this bag very much. But it's old and small. I want a new big blue bag. I like blue very much. So I like new big blue bag for birthday. All right? 」

じゃあ先生の話聞いて、ワークシートに聞き取ったことを書いてみましょう。はい、どうぞ。1分で、1分だけ。では、お願いします。じゃあ先生の誕生日はいつかな。……。

「・・・ September 28th. 」

Yes! It's September 28th, very good. And, my favorite color?

「・・・ It's blue. 」

Yes! It's blue. I like blue very much. And what I want?

「……new big blue bag. 」

Wow! Yes. good job! (拍手)

で、ここで評価をする場合、書いたワークシートを見て、AとBとCを判断しないといけないんですね。では、事例集がどうしてるか見てみましょう。事例集は、概ね満足できる会話の回答として、まず誕生日は、9月28日、好きな色は青、欲しいものに青い鞆って書いてるから、Bと記録に残すとしています。では、努力を要するなって思う子はどのような様子かいうと、誕生日は8月28日、つまり、「September」が聞いて分かっていないということですね。正確さという観点でちょっと努力

第4時 ワークシート例

○先生の話聞いて、たん生日や好きな色、ほしいものを書きましょう。

たん生日
好きな色
ほしいもの

十分に満足できる (A)	誕生日:9月28日 好きな色:青 欲しいもの:大きくて青いかばん, 古くて小さいから	B段階に、さらに追加の情報
おおむね満足できる (B)	誕生日:9月28日 好きな色:青 欲しいもの:青いかばん	
努力を要する (C)	誕生日:8月28日 好きな色:青 欲しいもの:小さいかばん	月名と欲しいものの聞き取りに正確さが欠けている。

を要すると判断されるということですね。好きな色は青、それは聞き取れていますね。「I like blue.」は聞き取れてる、分かってる。でも、欲しいものは小さい鞆じゃなかったのですよね。先生が欲しかったのは、「I want a new big blue bag」ですよ。ここに正確な聞き取りがちょっと足りないなっていうことで、努力を要するとなっています。それでは、Aってどんな姿なんでしょう。どういうときにAつけますか？
「・・・ 誕生日が9月28日で、好きな色は青で、欲しいものに新しい大きい青いバッグって書いていたらA」

なるほど！ここは、今お答えされたみたいに、Bにプラス追加の情報まであったらAにしましょうというように、先生は決めていいわけです。概ね満足できる段階、つまり評価規準を明確に決めて、それ以上の内容がある時、Aにしましょうっていうふうに、決めていいです。学校の、そして学級の実態に合わせて考えていってもらえればよいと思います。

大事なのは、先ほどお話ししたように授業改善、学習改善がきちんとされているかということです。もし、まだ評価規準に到達できない児童がいた場合、次の時間、ちょっともう少し聞く時間を増やしてみる、表現を使う活動と時間を増やしてみる、振り返りのコメントでアドバイス等を書いてあげる等いろんなやり方があると思います。目指したいのはBなので、そこに近付けるような努力をしましょ

うねということです。「聞くこと」の評価はこれで完了。もうCはC、もう終わりではなく、Bに近付ける、そういう指導をしてくださいねっていうことを、強く言っています。

では、次に、思考・判断・表現の評価をやってみましょう。

「聞くこと」の思考・判断・表現の評価を、事例集では、「相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど具体的な情報を聞き取っている」と評価規準を示しています。ここで大事なのは、評価する活動にコミュニケーションの目的や場面、状況の設定があるかどうかでことです。今度は、状況に応じて適切に聞き取ることができているかなということです。状況に応じて、適切な言葉を選んで表現できているかなというところを見取るところが知識・技能と大きく違います。

やってみます。けんた君とラクシュの会話です。事例集は、何のために、という目的は、「相手のことをよく知るため」としています。右側の女の子がラクシュです。そして、ラクシュについて、分かったことを書きましようというふうに書いています。分かったことですね、さっきの知識・技能と違っていています。先ほどは、「誕生日、好きなこと、欲しいものを言うよ、聞き取ってね」だったんです。今度は、二人の会話から、「ラクシュのことについて、ラクシュのことよく知るために分かったこと」を聞き取るように指示していて、何について話しているかまで説明していませんね。思考・判断・表現の観点でシートに書かせて見取るときには、聞き取ったことをどう書かせるかはとても大事です。自分の目的に合わせて、聞こえたこと言葉を聞き、必要なことを選んで、考えて書くというようにさせないといけませんね。

さあ、みんな、ラクシュさんとけんた君が話し合っています。二人の会話をきいて、みなさんがラクシュに誕生日プレゼントを贈るとしたら、何を贈ると喜んでもらえるかな？何を贈ったら喜んでくれると思う？じゃあけんた君とラクシュが話をしているので、よく聞いてみましょう。

「Hello, Laksh. When is your birthday?」

「Hi, Kenta. My birthday is June 28th.」

「Oh, it's this month. What do you want for your birthday?」

「I want an umbrella.」

「Really? An umbrella for your birthday? What color?」

「I like yellow. I want a yellow umbrella for my birthday.」

「Oh, I see. What sport do you like, Laksh?」

「I like swimming.」

「How about food? What food do you like?」

「I like donuts very much. I want a donut party for my birthday.」

「A donut party? Great!」

じゃあ先生方、ラクシュにプレゼントして、贈りたい、喜ぶと思うイラストに丸をつけて、それを選んだ理由を書いてください。聞いてみましょうかね。誰か、どなたでも。何を選んだのか、その理由は何かをお願いします。

「・・・ 黄色い傘を選びました。その理由は、黄色が好きだから。」

なるほど、Thank you very much!

「・・・ ドーナツが欲しいと言いました。理由は、ドーナツが好きだからって言ったので誕生日にドーナツを食べたいかな」

なるほど、ありがとうございます。Thank you very much.

「・・・ はい。私はドーナツを選びました。なぜかといったら、yellowだったり水泳が好きっていうのも出たんですが、やっぱり最後のドーナツパーティーのところがすごく楽しそうに僕は伝わったので、一番ドーナツがいいんじゃないかな思いました。」

Thank you very much. 皆さん、good job!!

先生方、どれをあげるとラクシュは喜んでくれるかなと思いながら聞いてたんですね。で、必要な情

報は、その人が聞き取ったことで書いてもらうんです。思考・判断を特に見とるときには、よく聞かないで想像だけで書く人もいます。結構いるんです。それを防ぐためには、なぜそう思ったのって、書かせることは大事ですね。なぜそういうふう考えたのかなということです。

じゃあこれをA、B、Cの基準でどう評価する？ていうところまでやりたいんだけど、時間があまりないようです。

さあ、ラクシュは、お誕生日にこれを欲しいって、実は言ってるんですね。明らかに言ってます。それは何かというと黄色い傘なんですよ。それが、誕生日に欲しいわけです。「I want a yellow umbrella for my birthday.」って言ってるんです。ということは、誕生日に黄色い傘が欲しいって言っているんだから、お誕生日には黄色い傘って書いてあるのは、規準を達成できていてBです。

ここに例えば、ドーナツを誕生日に食べたい、黄色い傘ではなくドーナツだけ書いてあったら、先生はBにしますか、Cにしますか？私だったらどうするかというと、この二人の会話を聞いて、ラクシュは「I want a yellow umbrella for my birthday.」って言ってるんだから、それは聞き取ってほしい。そしてその表現には、これまでに音声で十分に聞いてきている。十分に聞いてきた上で、目的、状況の応じて聞き取ることが出来ているかを評価したいので、概ね満足できるではなく、私だったら努力を要するCにするかなと思います。で、ここで、まだ「聞くこと」について不十分さが残った指導として授業改善を行っていかないといけないということです。

では、次に、主体的な学習に取り組む態度とあります。ここも難しいですね。今日は時間が足りなくて、この話は十分できないですが……。知識・技能を使って、これらを使いながら思考・判断、表現をしている。この過程で行き来しながら育っていくのが主体的に取り組む態度です。ここでは、粘り強く学習に取り組む態度と自己調整という二つのキーワードが示されています。この姿は、1点だけの姿では見れないんですよ。ずっとその変容の過程を見てないと。どのように粘り強く取り組んでいるか、自分の学びを振り返り、自分でどう調整しながら目標に向かおうとしているか、その変容の過程を可視化できるようなものがあるとよいと思います。子供の内面がどう変わってきたのか、なぜ、そのように変えたのかっていうものは子供の中にあるからです。それを表出させないと見取るのは難しいですね。なので、ここの評価は必ずその表出させる、可視化させるものを活用するとよいと思っています。

これから大切にしたいこと

このコロナのおかげと言いたくないけど、コロナのことで、オンラインで研究、研修できる場がすごく増えました。文部科学省からも本当にいろいろなものが出てます。先生方、活用されていると思いますが、ここにコンテンツが山ほど入っていますね。YouTubeチャンネルで、言語活動についてとか、教科についてとか、いろいろな活動について大変詳しく解説されていますし、授業動画もたくさんあるんです。

実は、これは、私も授業で使いました。動画資料がこんなにたくさん、一気に増えたことで、いつでもなんでもで視聴することができるようになったのは大変有難いことですね。これらは、校内研修で十分に使えます。ぜひ、どんどんあるものは活用してほしいと思っています。自分で、家にいてみて勉強することもできます。自己研修にも使えますね。

また、各教科書会社から出ている資料もたくさんあります。それぞれの教科書会社のホームページを探せば、今回ほんとうに多くの資料が掲載されています。授業をする際の資料もありますし、音声や映像資料もあります。いっぱいあるので、ゼロからつくるのは大変なので、もうあるものどんどん使っちゃいましょう。

小学校こそチームワーク文化です。私はすごくそう思っています。一人で悩まずに、ぜひみんなで協力しながらやってほしいなと思います。

この想定外の危機的状況、今のこの時期まで乗り越えることができたのは、本当に現場の先生方の力です。もちろんいろんな支えがあってですが、先生方のこの底力といいますか、これがあってこそです。先生方の力が、まさに今を作っています。本当にそう思います、以上で終わります。ありがとうございました。